



表現に着目して読み、考えたことを伝え合おう  
— 模型のまち —  
○その修飾は、どこにかかるの？

P126~151

※無断で複写・複製することを禁じます。

次の文章を読んで、問題に答えなさい。

平和公園は、初めから公園なんかじやなかつた。亮は、額のあせを手のこうでぬぐう。「なんにも知らないんだ。」眞由のあのときの声が耳もとで聞こえる。

られた。あそこの下には、こういうまちがあつた、つてこと。  
そう言ふと、圭太は二人に説明を始めた。まず、平和公園

の地図の上に、トレーシングペーパーに写し取つた昔の地図を重ねて、頭の中を整理する。次に道路や空き地、大きなお寺などの位置を確認してから、道に沿つて小さな家を並べて

いく……。二次元から三次元へ、と圭太は  
「焼ける前のまちの写真がこれ。あの日郊外にいて生き残つ  
言つた。

た住人から話を聞いて、当時の戸別詳細地図やCGができ  
た。この模型は、③そういう資料を基にして作っている。ひ  
ハジハちゃんが生き残らなかつたう、ぼくたうはここに

圭太は、そう言うと、真由と亮を  
見つめた。

お寺てら、お墓はか、幼稚園ちうりょん、お風呂屋さんふろや、魚屋さんさかなや、旅館りょかん、映えい画館がikan、保ほ険けん会社かいしゃ、時計屋じけいやさん、呉服屋ごふくやさん、薬屋やくやさん、お米こめ

屋さん、歯医者さん。ふとん屋さん、紙問屋さん、印刷屋さん、お菓子屋さん……。真由が昔の地図に書かれた店を一つ

「一 声に出して読みあける  
いそいそな職業の 年齢もさまで  
さまな人たちがここにいた。  
公園じゃなくて、まち。亮にも  
それは理解できた。

「ひいじいちゃんは、お寺の境内や細い路地で遊んだんだつて。夏には、この川で泳いで……きっとこの道を通つて家

に帰<sup>か</sup>ったんだ。家はこの位置<sup>いぢ</sup>さあ  
二人でここに家を建てて。  
圭太が模型のまちの路地を指<sup>さ</sup>てたどる。

「……でも、ぼく、やつぱりひと来ない、まちがあつたな  
うなずく。

圭太さんは、わかるの？」  
亮は、思つたことを口にした。

「わからんないよ。わからんないから、これを作つてゐる。」

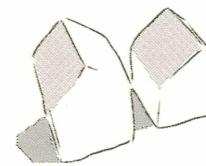
白い家を作つて、お寺の東どなりに置いた。あの日、消えた  
真由のひいじいちゃんの家。あつたはずの家……。

文化祭に展示するまで、模型は工作室に置かれている。色は  
ぬられず、白いままで。亮は真由といつしょに、それを見た。

曰いまちには、こんなにいっぱい家があつた。けれども、亮の中で、まちは目の前の⑤でしかなく、白いままね

文章中の□にあてはまる言葉をあの□から選んで、記号で書きなさい。

ア エ ダまつて イ もくもくと ウ ついに  
カ 代わる代わる オ 気どつて カ あつけなく



5  
金 棒



- 6 文章中の (5) にあてはまる言葉を、あとのがら選んで、記号で書きなさい。  
7 白いままねむつていたとありますか。亮はなぜそう感じたのですか。正しいものに○を書きなさい。

( ) まちの夜の様子を表しているから。

( ) まちで人が生きている感じがしないから。

( ) 模型を作っているとちゅうであるから。

- 4 そういう資料とありますか。が、どんな資料のことですか。  
文章中から十二字でぬき出して、始めと終わりの三字を書きなさい。  
い。

5 ④これを作つてるとあります、圭太が模型のまちを作つ  
てはいるのは、なぜですか。文章中の言葉を使って書きなさ  
い。

- ① 額のあせを手のこうでぬぐうとあります。亮はどのよ  
うな気持ちでしたか。正しいものに○を書きなさい。  
( ) 平和公園が初めから公園ではないことを知つて、よ  
ろこんでいる。

② ( ) 耳もとで真由の声が聞こえてほつとしている。  
( ) 真由に「なあんにも知らないんだ。」と言われたと  
きのことと思い出し、あせつている。

字四字でぬき出して書きなさい。

	組
	番
評	點
■ 知識 技能	/30
思考 判斷 表現	/70